

【生活・小1・「あきの いいところ みつけた」】①

育成を目指す資質・能力

落ち葉や木の実、枝等の秋のものを使って作品や遊ぶものを作り、「みんなの秋展覧会」で作った作品や遊ぶものを紹介し合う活動を通して、作品や遊ぶものを作る工夫をし、秋の特徴やよさ、自分自身の成長に気付き、今後の生活に秋の特徴・よさを生かそうとすることができる。

ICT活用のポイント

ICT端末を活用しながら、落ち葉や木の実、枝等の秋のものを使った過去の作品や遊ぶものをスライドショーで提示したことで、作品や遊ぶものを作りたいという意欲をもつことができるとともに、作品や遊ぶもののイメージをもつことができる。

1. 本時のめあてをつかむ。

秋のものを使った作品や遊ぶものを作る計画を立てるという目的意識をもつ。作品や遊ぶものを作る計画を立てよう。

2. 秋のものを使った作品や遊ぶものを作る計画を立てる。

作りたい作品や遊ぶものの完成図を描いたり、必要な材料などを考えたりする。

3. 本時の学習の振り返りをする。

本時の活動を振り返り、気付いたことや感想などを発表する。

事例の概要

【事例におけるICT活用の場面①】

○作りたい作品や遊ぶものを考えるきっかけをつかめるように、2台のモニターにそれぞれ過年度の1年生が作った作品と遊ぶものをスライドショーで提示する。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 作りたい作品や遊ぶもののイメージをもてるように、過去の作品や遊ぶものを常時モニターにスライドショーで提示する。
- 手が止まっている児童には、作りたい作品や遊ぶもののイメージをもてるように、モニターを指さし、作ってみたい作品や遊ぶものを改めて問いかける。

【生活・小1・「あきの いいところ みつけた」】②

【事例におけるICT活用の場面①】

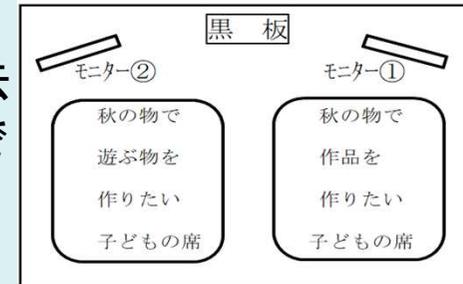


【事例におけるICT活用の場面②】



児童は、「秋展覧会」をすることに向けて、木の実や落ち葉、枝などの秋のものを使って作品または遊ぶものを作る計画を立てるといふめあてをつかんだ。

教師は、タブレット端末に保存した①過去の作品②過去の遊ぶものを写真アプリでスライドショーにし、モニター①とモニター②に映した。児童は、完成図や必要な材料を書く学習プリントを受け取り、計画を立て始めた。



児童は、自分の作りたい作品または遊ぶものの具体的な完成図を、1人で黙々と考えたり、作りたい物が同じ近くの友達と話し合ったりする様子が見られた。松ぼっくりを使った作品を考えていたある児童は、参考になる作品を探すためにモニターを見て、「ねえ、見て。あれ、面白そう。」「松ぼっくりをたくさん積みば大きなクリスマスツリーになるんだね。」などとつぶやいたり、友達に話しかけて共感を得たりする姿が見られた。これは、過去の作品や遊ぶものを常時モニターにスライドショーで提示したことにより、児童が自分の必要感に合わせてモニターを見て、自分に必要な情報を選択できたからだと考えられる。さらに、作品と遊ぶものに分けてモニターを2台用意し、作りたい物が同じ友達と座席が近くなるよう教室環境を工夫したことにより、モニターに映る情報を得やすくなったと考えられる。一方で、具体的なイメージを既にもっている児童にとっては、モニターを見ずに黙々と計画を立てる姿もあった。